

エル・ネット「オープンカレッジ」 News

21世紀の生涯学習を拓く

エル・ネット「オープンカレッジ」

筑波大学教授 山本恒夫

(1) エル・ネット「オープンカレッジ」への期待

あとわずかで21世紀です。21世紀の生涯学習はどうなるのか、ということに思いを馳せたくります。21世紀には、おそらく、新たな情報コミュニケーション技術を活用した生涯学習が脚光を浴びるようになるのではないのでしょうか。

従来は、大学の教員が個人的に公民館へ行くことはあっても、大学が公開講座などを公民館へ行って開くということはありませんでした。ところが、情報はどこへでも飛んでいきますから、これからは、公民館から遠い大学であってもうまく結ばば、その大学の公開講座を居ながらにして受講できるようになります。また、遠くのデータベースからでも学習の資料を瞬時に入手できたりします。

最近では、大学も盛んに公開講座を開くようになりました。しかし、大学から遠い地域の人は公開講座に行きたいと思ってもな



かなか行かれません。近くの公民館で、全国のいろいろな公開講座の中から自分の聴きたいものを選んで受講できれば、とまっている人もかなりいるのではないのでしょうか。エル・ネット「オープンカレッジ」は、大学と公民館を結んでそのようなニーズに応えるべく、大きな役割を果たしてくれることになるのではないかと期待しています。

(2) 豊かな学習資源・豊かな学習

新たな情報コミュニケーション技術を活用した遠隔教育、コンテンツの作成等が、社会全体に学習資源の豊かさをもたらしてくれることはいままでもないと思います。従来からの学習機会や学習資料にそれらが加わることが、どれだけ質量両面にわたる学習の豊かさをもたらしてくれるかわかりません。

従来は仕事等による時間的制約があったり、講座が遠くで開かれているために参加できないといった空間的制約がありましたが、遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等も含む）などを活用すれば、そのような制約からかなり解放され、学習の自由度は飛躍的に増大します。

また、これまでは学習者の利用できる学

習資源にはおのずと限りがありましたが、遠隔教育、各種データベース等が充実すれば、豊富な学習資源の中から学習機会・資料等を選ぶことができることになり、選択幅も大幅に拡大されます。

従来の学習といえば知識・技術の習得が中心でしたが、情報が豊富になれば、これからの学習はそれを駆使した知識・技術の創造を目指し、創造の仕方の習得を重視するというように、学習そのものも変わってくるのではないのでしょうか。

(3) これからの生涯学習

これからの生涯学習について、生涯学習審議会「新しい情報通信技術を活用した生涯学習の推進方策について - 情報化で広がる生涯学習の展望 - (中間まとめ)」(平成12年6月)は、新たな情報コミュニケーション技術を活用することにより、「新たに効果的な学習スタイルを開発することができるようになるとともに、学習者が主体的に、自らの学習目的に応じて、それぞれの情報機器や学習機会を選択し、組み合わせるメニューを作り学習することができるようになります」と述べています。

おそらく、これからは、そこで述べられているような学習メニュー方式での学習が本格化するように思われます。よく、遠隔講座が盛んになると公民館の講座が寂れると心配する向きもありますが、逆だと思えます。野球のテレビ中継が始まったら、球場へ行く観客は減るどころか増え、人気も高まりました。

用語解説

◆双方向通信◆

エル・ネット「オープンカレッジ」の講義では大容量の衛星回線を利用して動画や音声を送信しています。講義を見た学習者は、質問をインターネットなどの地上回線で講師に送ることが可能です。このように相互に情報をやり取りできる

通信方法を「双方向通信」といいます。これまでのテレビやラジオなどの放送は一方の通信です。双方向通信が行えるメディアでは電話やテレビ会議システムなどが代表的です。これらはリアルタイムで通信を行うことが特徴です。それに対して電子メールなどは、学習者と講師が好きな時間に情報を交換できるという特徴があります。テレビ会議で質問をするには

講師が相手側の端末にいなければなりません。電子メールではその必要はありません。通信教育では、質問は郵送で行うのが一般的です。生涯学習では疑問が生じたときに、速やかに解決できないことが学習の障害となることがあります。疑問はできる限り早く解決することが望ましいです。「オープンカレッジ」の質問システムは、その双方向通信の可能性を検証しています。



モデル事業について

高等教育情報化推進協議会では、今年度全国7地区に調査研究を委嘱し、エル・ネット「オープンカレッジ」の効果的な活用についてのモデル事業を実施しています。これは、公民館などの社会教育施設が、遠隔大学公開講座を取り入れ、どのように地域の生涯学習の充実を図っていくかを調査研究するものです。「エル・ネット受信施設」を中心として、施設関係者や地域協力者、受講者の代表等からなる協議会を構成し、エル・ネット「オープンカレッジ」を利用した公開講座の企画・実施・評価を行います。事業の実施にあたっては、できるだけ受講者や受講グループの意見・要望を取り入れ、プログラムを決定するなど利用者のニーズを反映した事業を展開することが求められています。委嘱先は青森県総合社会教育センター、山形県尾花沢市学習情報センター、岐阜県立図書館、長野県松本市中央公民館、島根県内各地公民館、広島県生涯学習センター、国立赤城青年の家の7地域・施設です。

エル・ネット「オープンカレッジ」を活用した公開講座のタイプとしては次のものが考えられます。

①新規開発型：「エル・ネット オープンカレッジ」の提供講座を活用して新しい学習

支援活動を展開する。

②メニュー選択型：従来から公民館等で独自の講座を開設していたが、効果向上のためエル・ネット「オープンカレッジ」が提供する講座を加えて実施する。

③連携型：特定の大学と連携をとり、公開講座を開催する。その方法としてエル・ネット「オープンカレッジ」を利用する。

これら以外のタイプも考えられます。また、エル・ネット「オープンカレッジ」だけでなく、子ども放送局、家庭教育セミナー等の番組など他のエル・ネットの番組との組

み合わせによる事業展開も考えられます。公開講座の実施に際しては、広報、受講申し込み、受講体制等について実証的な試みが行われます。

①広報活動では、ポスターの掲示、エル・ネット「オープンカレッジ」ニュースの配付、地域の広報誌への掲載、地域のインターネットへの掲載、地方マスコミとの協力連携などが考えられます。

②受講申し込みでは、申し込みをどのように行うか、テキストの受け渡しなど。

③受講体制では、講座を支援するコーディネーターや、チューターを付けること、メディアを使った双方向質疑、録画による別日程での開講、講師が受講会場を訪れ学習活動を促進すること、等が考えられます。さらに評価として、受講者アンケートを実施するほか、講座終了時に受講を証する修了書等を授与するなど学習成果への対応をどうするかといったことも検討課題です。

このモデル事業は、本年度エル・ネット「オープンカレッジ」放送予定である2月末まで実施され、事業の終了時には報告会が行われます。またモデル事業の途上で、公開講座の相互見学会なども計画されています。

(高等教育情報化推進協議会事務局)



■エル・ネット「オープンカレッジ」の受講について

Q：エル・ネット「オープンカレッジ」の講座内容や放送スケジュールは？

A：エル・ネット「オープンカレッジ」の情報は、インターネットのホームページ (<http://www.opencol.gr.jp/>) で知ることができます。放送の日程等最新の情報がここで見ることもできます。また、インターネット以外にも、高等教育情報化推進協議会（電話03-3591-2186）までお気軽にお問い合わせください。

Q：エル・ネット「オープンカレッジ」のテキストはどうすれば手に入る？

A：テキストは、このニュースレターにある「テキスト申込書」で取り寄せることができます。また、インターネットのホームページ上の、「講座テキスト申し込み→PDFをダウンロードする」から、各講義のテキストがダウンロードできます。紙にプリントアウトすれば、それがそのままテキストになります。



URL <http://www.opencol.gr.jp>

エル・ネット「オープンカレッジ」 11月放送日（予定）

講座の内容、放送の日時は変更されることがあります。ご了承ください。

日付	実施大学／講座コード／時間／内容／講師
1日 (水)	聖学院大学 (025-01) 10:00～11:10 『21世紀日本の課題』②「コミュニティとは福祉社会をつくる」 牛津 信忠（聖学院大学教授）
1日 (水)	琉球大学 (101-01) 14:00～15:30 『民俗学：亜熱帯から逆照射—琉球文化からみた日本文化の古層—』 ①「方言からみた自然観—ニンは冬の季節風—」 小島 瓊禮（琉球大学教授）
2日 (木)	跡見学園女子大学 (029-01) 10:00～11:30 『世界の文化と女性』①「女性たちが男性たちを越えた時—アメリカの現在—」 クリストファー・ドレイク（跡見学園女子大学教授）
4日 (土)	中部大学 (033-01) 10:00～11:00 『日米の表現法の違い』①「源氏物語絵巻」 小中 陽太郎（中部大学教授）

日付	実施大学／講座コード／時間／内容／講師
7日 (火)	奈良教育大学 (108-01) 10:00～11:40 『“やまと”から知的資源の開放—日本・世界—』⑥「地域に開かれた特色ある学校づくり—学校評議員制、自己評価を通して—」 八尾坂 修（奈良教育大学教授）
8日 (水)	専修大学 (011-01) 10:00～11:30 『現代日本の非行—犯罪心理学的視点から—』③「発達と非行」 森 武夫（専修大学名誉教授）
8日 (水)	琉球大学 (101-01) 14:00～15:30 『民俗学：亜熱帯から逆照射—琉球文化からみた日本文化の古層—』 ②「新年とはなにか—冬作型農業の歳時観—」 小島 瓊禮（琉球大学教授）
8日 (水)	長崎大学 (118-01) 16:30～18:00 『まちづくりと生涯学習』①「地域活性化とまちづくり」 新田 照夫（長崎大学助教授）

日付	実施大学／講座コード／時間／内容／講師
9日 (木)	跡見学園女子大学 (029-01) 10:00~11:30 『世界の文化と女性』②「炎の女ふたたび—カフカの恋人ミレナー—」 飯島 周 (跡見学園女子大学教授)
10日 (金)	札幌学院大学 (024-01) 10:00~11:30 『現代社会の中の心理学』①「科学技術と心のひずみ」 池田 光幸 (札幌学院大学教授)
14日 (火)	名古屋商科大学 (018-01) 10:00~11:30 『現代中国入門』①「現代中国の成り立ちから改革開放の現状 —そして将来への展望—」 岡田 臣弘 (名古屋商科大学教授)
15日 (水)	聖学院大学 (025-01) 10:00~10:45 『21世紀日本の課題』③「姿貌する時代と人間の倫理」 鶴沼 裕子 (聖学院大学教授)
15日 (水)	琉球大学 (101-01) 14:00~15:30 『民俗学：亜熱帯から逆照射—琉球文化からみた日本文化の古層—』③ 「稲作儀礼の動物供犠—2月に牛肉を供える神事—」 小島 瓊禮 (琉球大学教授)
15日 (水)	長崎大学 (118-01) 16:30~18:00 『まちづくりと生涯学習』②「市民参加のまちづくり」 新田 照夫 (長崎大学助教授)
16日 (木)	跡見学園女子大学 (029-01) 10:00~11:30 『世界の文化と女性』③「フランス文化における女性の光と影—A. ブルトン『ナジャ』の女性をめぐる—」 笹本 孝 (跡見学園女子大学教授)
17日 (金)	札幌学院大学 (024-01) 10:00~11:30 『現代社会の中の心理学』②「子どもの発達と家族」 奥平 洋子 (札幌学院大学教授)
18日 (土)	中部大学 (033-01) 10:00~11:00 『日米の表現法の違い』②「平治物語絵巻」 小中 陽太郎 (中部大学教授)
18日 (土)	群馬県立女子大学 (202-01) 14:00~15:10 『日本文化の諸相』①「中世の対外意識」 市川 浩史 (群馬県立女子大学助教授)
18日 (土)	中央学院大学 (007-02) 16:30~18:00 『ルソーの見た近代思想と政治』/「ルソーの見た近代思想と政治」 土橋 貴 (中央学院大学助教授)

日付	実施大学／講座コード／時間／内容／講師
21日 (火)	徳島大学 (115-01) 10:00~11:30 『職人に学ぶ — 技の伝承と文化—』①「伝統技能に見る職人の技と文化」 森 和夫 (徳島大学教授)
22日 (水)	専修大学 (011-01) 10:00~11:00 『現代日本の非行—犯罪心理学的視点から—』④「今日の非行問題からみた社会的課題」 森 武夫 (専修大学名誉教授)
22日 (水)	琉球大学 (101-01) 14:00~15:30 『民俗学：亜熱帯から逆照射—琉球文化からみた日本文化の古層—』 ④「神と社会組織—女の神職と男の頭屋制—」 小島 瓊禮 (琉球大学教授)
22日 (水)	長崎大学 (118-01) 16:30~18:00 『まちづくりと生涯学習』③「まちづくりの担い手育成事業と大学の生涯学習事業の連携」 新田 照夫 (長崎大学助教授)
24日 (金)	札幌学院大学 (024-01) 10:00~11:30 『現代社会の中の心理学』③「思春期の心—悩みを抱える力を育てるには—」 徳田 仁子 (札幌学院大学助教授)
28日 (火)	徳島大学 (115-01) 10:00~11:30 『職人に学ぶ — 技の伝承と文化—』②「現代に生かす技の伝承と文化」 森 和夫 (徳島大学教授)
29日 (水)	聖学院大学 (025-01) 10:00~10:45 『21世紀日本の課題』④「対話と協調の時代」 金子 晴勇 (聖学院大学教授)
29日 (水)	琉球大学 (101-01) 14:00~15:30 『民俗学：亜熱帯から逆照射—琉球文化からみた日本文化の古層—』⑤ 「誕生の儀礼と日本神話—生きている神話の世界—」 小島 瓊禮 (琉球大学教授)
29日 (水)	広島大学 (117-01) 16:30~18:00 『放射線と放射能、四方山話』①「放射線と放射能」 石川 正純 (広島大学助手)
30日 (木)	跡見学園女子大学 (029-01) 10:00~11:30 『世界の文化と女性』④「中国の女性たち—近代から現代へ—」 池上 貞子 (跡見学園女子大学教授)

エル・ネット「オープンカレッジ」 12月放送日 (予定)

講座の内容、放送の日時は変更されることがあります。ご了承ください。

日付	実施大学／講座コード／時間／内容／講師
1日 (金)	札幌学院大学 (024-01) 10:00~11:30 『現代社会の中の心理学』「夫婦関係の心理学」 岩壁 茂 (札幌学院大学講師)
1日 (金)	流通経済大学 (031-01) 14:00-15:30 『ネットワーク社会の商業と物流』「ネットワーク社会と流通」 原田 英生 (流通経済大学教授)
2日 (土)	山梨大学 (109-01) 10:00-11:00 『教育実践研究』「総合学習の歴史・理論・カリキュラム開発」 成田 雅博 (山梨大学助教授) 林 尚示 (山梨大学講師)
2日 (土)	群馬県立女子大学 (202-01) 14:00-15:20 『日本文化の諸相』「森鷗外「不思議な鏡」—分身小説の視点から—」 渡邊 正彦 (群馬県立女子大学教授)
2日 (土)	早稲田大学 (016-01) 16:30-18:00 『私たちのくらしと経済・企業の国際化』「こんな身近なところに世界が」 藁谷 友紀 (早稲田大学教授)
5日 (火)	岐阜大学 (114-01) 14:00-15:30 『児童英語教育への誘い』「児童英語教育の意義と役割」 北岡 順子 (岐阜大学教育学部附属小学校教諭) 松川 禮子 (岐阜大学教授)

日付	実施大学／講座コード／時間／内容／講師
6日 (火)	東京都立保健科学大学 (203-01) 10:00-11:30 『東京都立保健科学大学オープンセミナー「家庭介護」』「介護保険が始まったの課題」 川村佐子 (東京都立保健科学大学看護学科長)
6日 (水)	図書館情報大学 (120-01) 10:00-11:30 『現代社会と図書館』「図書館の現代的役割」 葉袋 秀樹 (図書館情報大学教授)
6日 (水)	琉球大学 (101-01) 14:00-15:30 『民俗学：亜熱帯からの逆照射—琉球文化からみた日本文化の古層—』 「異郷観と神観念—ニライカナイと御嶽の神」 小島 瓊禮 (琉球大学教授)
6日 (水)	広島大学 (117-01) 16:30-18:00 『放射線と放射能、四方山話』「放射線被曝者への治療」 宮川 清 (広島大学教授)
7日 (木)	愛知学院大学 (023-01) 10:00-11:30 『学問のおもしろさ—21世紀へのメッセージ—』「刑事法の容容—刑罰制度の能力と限界—」 原田 保 (愛知学院大学教授)
7日 (木)	京都教育大学 (105-01) 14:00-15:30 『みんなで国際理解を考える—現地での教育協力活動の経験を通じて—』 「主としてフィリピンなどでの取り組みから」 大隅 紀和 (京都教育大学教授)

日付	実施大学／講座コード／時間／内容／講師
8日 (金)	中央学院大学 (007-01) 10:00-11:30 『市民のための簿記—基本入門講座—』『簿記ってなに?』 椎名 市郎 (中央学院大学教授)
8日 (金)	流通経済大学 (031-01) 14:00-15:30 『ネットワーク社会の商業と物流』『ネットワークと小売業』 小林憲一郎 (流通経済大学教授)
11日 (月)	常磐大学 (022-01) 12:50-14:10 『コミュニティの振興を考える—共生のまちづくりを目指して—』 『博物館と学校教育』 大堀 哲 (常磐大学教授) 坂井 知志 (常磐大学助教授)
12日 (火)	東京都立保健科学大学 (203-01) 10:00-11:30 『東京都立保健科学大学オープンセミナー「家庭介護」』『家庭介護の体験学習』 志自岐康子 (東京都立保健科学大学教授) 他
12日 (火)	岐阜大学 (114-01) 14:00-15:30 『児童英語教育への誘い』『児童英語教育の方法』 北岡 順子 (岐阜大学教育学部附属小学校教諭) 松川 禮子 (岐阜大学教授)
13日 (水)	図書館情報大学 (120-01) 10:00-11:30 『現代社会と図書館』『生涯学習と図書館』 満上智恵子 (図書館情報大学助教授)
13日 (水)	山梨県立女子短期大学 (204-01) 14:00-15:30 『山梨県立女子短期大学 秋季大学開放講座 in八代町「豊かに暮らす楽しく暮らす一年齢を超えて—」』『ころばめ先のバリアフリー—自立して暮らせる住まい—』 伊藤ゆかり (山梨県立女子短期大学助教授) 野崎 薫 (同助教授)
13日 (水)	広島大学 (117-01) 16:30-18:00 『放射線と放射能、四方山話』『世界の放射線被曝地』 高田 純 (広島大学助教授)
14日 (木)	愛知学院大学 (02301) 10:00-11:30 『学問のおもしろさ—21世紀へのメッセージ—』『ドイツの歴史に学ぶ—「興隆」の19世紀から「破局」の20世紀へ、そして未来へ—』 末川 清 (愛知学院大学教授)
14日 (木)	京都教育大学 (105-01) 14:00-15:30 『みんなで国際理解を考える—現地での教育協力活動の経験を通じて—』 『主としてケニアなどでの取り組みから』 大隅 紀和 (京都教育大学教授)
15日 (金)	中央学院大学 (007-01) 10:00-11:30 『市民のための簿記—基本入門講座—』『簿記のしくみ』 椎名 市郎 (中央学院大学教授)
15日 (金)	流通経済大学 (031-01) 14:00-15:30 『ネットワーク社会の商業と物流』『インターネットとマーケティング』 中村 博 (流通経済大学助教授)
16日 (土)	山梨大学 (109-01) 10:00-11:00 『教育実践研究』『情報教育を推進するための学習環境』 成田 雅博 (山梨大学助教授) 林尚 示 (山梨大学講師)
16日 (土)	群馬県立女子大学 (202-01) 14:00-15:30 『日本文化の諸相』『猿のかたち』 榎原 悟 (群馬県立女子大学教授)

日付	実施大学／講座コード／時間／内容／講師
16日 (土)	早稲田大学 (016-01) 16:30-18:00 『私たちの暮らしと経済・企業の国際化』『国際化の中で私たちの生活・経済は大丈夫?』 藁谷 友紀 (早稲田大学助教授)
18日 (月)	常磐大学 (022-01) 12:50-14:10 『コミュニティの振興を考える—共生のまちづくりを目指して—』 『ボランティア活動』 吉永 宏 (常磐大学教授)
19日 (火)	東京都立保健科学大学 (203-01) 10:00-11:30 『東京都立保健科学大学オープンセミナー「家庭介護」』『家庭介護の体験学習』 山田 拓実 (東京都立保健科学大学講師) 他
19日 (火)	岐阜大学 (114-01) 14:00-15:30 『児童英語教育への誘い』『小学校における実践』 北岡 順子 (岐阜大学教育学部附属小学校教諭) 松川 禮子 (岐阜大学教授)
20日 (水)	図書館情報大学 (120-01) 10:00-11:30 『現代社会と図書館』『図書館職員の役割』 藁袋 秀樹 (図書館情報大学教授)
20日 (水)	山梨県立女子短期大学 (204-01) 14:00-15:30 『山梨県立女子短期大学 秋季大学開放講座 in八代町「豊かに暮らす楽しく暮らす一年齢を超えて—」』『“食卓”を囲んで延ばそう健康寿命』 出口 泰靖 (山梨県立女子短期大学講師) 他
20日 (水)	広島大学 (117-01) 16:30-18:00 『放射線と放射能、四方山話』『味噌及び大豆による放射線誘発疾患の予防効果』 伊藤 明弘 (広島大学教授)
21日 (木)	愛知学院大学 (023-01) 10:00-11:30 『学問のおもしろさ—21世紀へのメッセージ—』『21世紀の会計教育—会計学者の回顧と展望—』 藤田 幸男 (愛知学院大学教授)
22日 (金)	中央学院大学 (007-01) 10:00-11:30 『市民のための簿記—基本入門講座—』『簿記と決算』 椎名 市郎 (中央学院大学教授)
22日 (金)	流通経済大学 (031-01) 14:00-15:30 『ネットワーク社会の商業と物流』『電子商取引の進展とロジスティクス』 矢野 裕兒 (流通経済大学助教授)
26日 (火)	東京都立保健科学大学 (203-01) 10:00-11:30 『東京都立保健科学大学オープンセミナー「家庭介護」』『便利な機器のいろいろ』 栗原トヨ子 (東京都立保健科学大学助教授) 他
26日 (火)	岐阜大学 (114-01) 14:00-15:30 『児童英語教育への誘い』『児童英語教育の課題と展望』 北岡 順子 (岐阜大学教育学部附属小学校教諭) 松川 禮子 (岐阜大学教授)
27日 (水)	図書館情報大学 (120-01) 10:00-11:30 『現代社会と図書館』『分権型社会と図書館』 藁袋 秀樹 (図書館情報大学教授)
27日 (水)	山梨県立女子短期大学 (204-01) 14:00-15:30 『山梨県立女子短期大学 秋季大学開放講座 in八代町「豊かに暮らす楽しく暮らす一年齢を超えて—」』『ファッションを楽しむ—快適に着るということ—』 吉川 豊子 (山梨県立女子短期大学教授) 斉藤 秀子 (山梨県立女子短期大学教授)

◆テキスト申込書◆

ふりがな ご氏名	電話	—	—	FAX	—	—
ふりがな ご住所 〒	Eメールアドレス					

■開 講 平成12年10月～平成13年2月 51大学／55講座 ■受講料 無料
 ■テキスト代 実費(送料別)。ただし1講座につき100名までモニターとして無料(送料共)となります。モニターは受講後、簡単なアンケートにお答えいただきます。

●受講希望の講座コード及び大学名・講座名をご記入ください。テキストは実施講座ごとに作成します。

講座コード	大学名	講座名	講座コード	大学名	講座名
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

FAX送付先：03-3595-1297

